

## 連携先ミュージアム:京都市動物園

### 感動を伝えるサイエンスコミュニケーション:動物園をフィールドに

多世代が集う動物園を「公共経営」の場と捉え、京都市動物園の現状や課題を学び、京都市動物園の魅力をPRするイベントを企画・実践した。イベントを作り上げる中で、動物たちのことを学び、企画を他者と協働しながら実践し、表現力を豊かなものとし、リーダーシップを発揮することを目指した。

#### ■受講生

大島 直樹(同志社大学・政策学部・4年生)、賀中 春花(成安造形大学・芸術学部・2年生)、川口 瑛生(同志社大学・政策学部・2年生)  
 慶田 翔世(同志社大学・文化情報学部・3年生)、小管 真大(同志社大学・政策学部・2年生)、神野 萌佳(同志社大学・政策学部・4年生)  
 田村 隼太郎(同志社大学・政策学部・2年生)、畑 涼馬(同志社大学・政策学部・2年生)、原 百香(同志社大学・政策学部・2年生)  
 廣瀬 皓(同志社大学・商学部・4年生)、藤山 夏旺(同志社大学・政策学部・2年生)、松本 理夢(同志社大学・文学部名・3年生)  
 宮之原 黎(同志社大学・商学部・2年生)、保田 光善(同志社大学・政策学部・2年生)、山下 恵市(同志社大学・商学部・2年生)  
 鍵分 咲良(同志社大学・政策学部・2年生)

#### ■担当教員

服部篤子(同志社大学・政策学部・教授)、TA西口優毅(同志社大学大学院・総合政策科学研究科・博士前期課程2年)

### 活動目的・概要

京都市動物園を活動場所として、大学生の目線で得た発見と感動をもとに京都市動物園の魅力をPRするイベントを企画・実践しました。まず、京都市動物園を含む動物園の役割を知ることから始めました。京都市動物園の記事や論文及び、生き物・学び・研究センター センター長の田中正之先生のお話から動物園への理解を深めました。そして、隔週で京都市動物園へ訪問し、実際に動物たちの生態を観察する中で、企画立案を進めました。その結果、「音班」「パネル班」「クイズ班」「お絵描き班」の4グループを作り、2022年9月25日にイベントを実施しました。

音班は「音で感じる動物園」として、動物たちの鳴き声が聞こえるQRコードを作成し、来場客に目だけでなく音でも動物園を楽しんでもらいました。パネル班は、動物を新しく知ることや、動物たちの新たな一面を知ることがを目的に、パネルを制作し、動物の展示スペースの前で魅力を解説しました。クイズ班は、知っているようで知らなかった動物のことを、クイズ形式で参加者に知ってもらうことを目的にクイズを実施しました。お絵描き班は、年少者の動物や芸術への関心の向上を目的として活動を行いました。



#### ◆主な活動(授業や自主活動も含め、自由に記載してください。必要に応じてフォントサイズ等も調整してください。)

2022.4.15 ガイダンス@同志社  
 2022.4.22 講義:京都市動物園と歴史的背景と生き物・学び・研究センターについて「いのちをつなぐ動物園」@京都市動物園  
 2022.5.6 生き物調査@同志社  
 2022.5.13 フィールド調査@京都市動物園  
 2022.5.22 インタビュートレーニング@Zoom  
 2022.5.27 生き物・学び・研究センター、参考文献等の文献調査発表@京都市動物園  
 2022.6.3 フィールドワーク@法然院森のセンター  
 2022.6.10 講義「小さな生き物(ミツバチ)から学ぶこと」@同志社

2022.6.17 グループワーク:企画アイデア出し@京都市動物園  
 2022.6.24 グループワーク:企画アイデア出し@京都市動物園  
 2022.7.1 イベントコンテンツの企画提案@京都市動物園  
 2022.7.8 コンテンツの練り直し@京都市動物園  
 2022.7.15 イベントコンテンツの企画再提案@京都市動物園  
 2022.8.25 オンライン連絡会@Zoom  
 2022.9.9 パネル班リハーサル@京都市動物園  
 2022.9.25 イベントの実施@京都市動物園  
 2022.11.15 イベントの振り返りと活動報告書の作成@Zoom  
 2022.12.11 成果報告発表

## 活動の成果

# 京都市動物園でのイベント企画と実施

### 【音班】

#### 1.活動目的・概要

活動の名前は「音で感じる動物園」です。タイトルの通り、目だけで楽しんでもらうだけでなく、音でも動物園を楽しんでもらおうという目的でした。具体的には動物の鳴き声が聞こえるQRコードを柵の前に掲示して、その鳴き声を聞いてもらおうというものでした。

#### 2.活動成果

活動の成果はQRコードを提示するだけではなくなかなかお客さんが集まらなかったため、班員がスピーカーをもって、園内を回ることでお客さんを集めることに成功しました。鳴き声を流したのはキリン、カバ、ゾウの三種類の動物で、どの動物も鳴き声を流すと音の流れているところに集まってきて、迫力があり、まじりました。よくなかった点として、もう少し園内を回る時間を長くすると、より多くのお客さんに鳴き声を聞いてもらうことができたと感じました。また、少し時間に余裕ができたため、動物園で企画をしている他の班の手伝いなどができました。

### 【パネル班】

#### 1.活動目的・概要

私たちは、来園者に認知度が低い動物を新しく知ることや、馴染みのある動物の新たな一面を知ることや、興味関心を持ってもらうために、各自パネルを制作し、それを用いながら動物の展示スペースの前で魅力を解説しました。

#### 2.活動成果

京都市動物園で飼育されているツシマヤマネコ、トラ、オオサンショウウオ、フンボルトペンギンの4種に対し、魅力の発信をしました。パネルを使つての発表に際し、来園者からの具体的な質問を想定した応答集の制作や、ある程度の騒音が予想される環境できちりと話を聴いてもらえるように声の大きさや機材の利用、途中の来園者でも立ち止まってもらえるように試みました。成果として、オオサンショウウオなど、ニッチな動物については他の動物の“ついで”という感覚で見にくる方が多く、こちらから呼び止めたり、質問をしたりして、なんとか話を聞いてもらう状態でした。また、各パネルに共通する点として、それぞれの動物について、京都ならではのことに絡めての質問をよく受けました。

### 【クイズ班】

#### 1.活動目的・概要

「動物のことをもっと知ろう！クイズに答えて景品をゲットしよう！」というタイトルで、知っているようで知らなかった動物のことを、クイズ形式で参加者に知ってもらう企画です。動物についての豆知識、動物の魅力、また自然の魅力を、動物園を訪れたお客さんに伝え、動物に興味を持ってもらうことを目的としました。

#### 2.活動成果

クイズを3回に分けて行うことで、より多くのお客さんを集客することに成功しました。クイズは3回で1回につき50人参加することを予想していましたが、予想通り毎回満席に近い数のお客さんが来てくださりました。座席の配置や飾り付けなど、来てくれたお客さんに少しでも楽しんでもらうために工夫しました。懸念していた景品が手作りの折り紙であり魅力的ではなく、喜んでもらえないのではないかという点についても、作成してくれたクイズ班の2人や、お客様のお陰もあり、動物の折り紙は子供たちに大人気でした。また、ゾウの着ぐるみに関しては、コスト含め一番の不安材料でしたが、結果的に集客に大きな好影響をもたらせたと感じました。

### 【お絵描き班】

#### 1.活動目的・概要

私たちは京都市動物園の知名度向上、年少者の動物や芸術への関心の向上を目的として今まで活動してきました。対象を主に家族連れや小さい子どもとして、コミュニケーションをとりながら基本的には自由に描かせるようにしました。活動終了とともに、お土産として動物の形をしたマグネットを配布しました。

#### 2.活動成果

提案された案としては「パネル班と連携し簡単なクイズを解きながら絵を描いてもらう」「描く対象（動物）は自由」「描いた絵を動物園に展示してもらう」などありましたが、時間、手間、他の来園者への対応、熱中症の危険性などを考慮すると上記の案ではなく、最終的には「描く対象と場所は固定で参加者に自由に描いてもらう」というスタイルになりました。成果としては予想よりも沢山の人が参加していただき、3人だけでは対応が難しくなるなどイレギュラーな対応が必要になる場面もありましたが、大きなトラブルもなく無事に成功させることが出来ました。

## 活動を振り返って

### 【音班】

半年間の活動を振り返り、苦労した点と学んだ点と改善点をまとめます。苦労した点はどのようなフォーマットで音を届けるかが苦労しました。初めはグーグルドライブで提供しようと思いましたが、うまくいかず、最終的にはYouTubeに張り付けることで音を流すことができました。学んだことは動物園は教育の場でもあると感じました。鳴き声を聞いていた子どもたちの目は輝いていて、良い教育であると考えました。改善点は、もう少し動物の知識を入れるべきだったと感じました。鳴き声を聞かせてから、少し豆知識を披露できれば、より教育効果の高いものになったと考えました。

### 【パネル班】

半年間で企画立案、クラスでの発表、企画実施まで行ったので、イベントを実施することの大変さを痛感しました。動物園の来園者に対して、私たちの興味を持った動物の魅力を自分の言葉で、どう伝えるかというのを試行錯誤しました。また、動物園は様々な世代の来園者が、異なる目的を持って、来場されるなかで、どうすればパネルの前で足を止めてもらい、私たちの発表を聞いてもらえるのか苦労しました。半年間の活動で、パネルにした動物の詳しい生態や細かい特徴を学んだのと同時に、私たちの興味を人に共有する話し方に工夫する力が身に付きました。時間帯や場所によっては、パネルに2、3人しか集まらなかったことがあったので、呼び込みの仕方をもっと改善すべきだと思いました。一つのイベントを実施するまでの一連のプロセスを私たちだけで思考する力は、今後の学びにも生かしたいと思いました。

### 【クイズ班】

約半年間の活動を振り返ってみて苦労したことは、どうすれば子供達にクイズに参加してもらえるか、興味を持ってもらえるかといった点です。ただクイズを出題するだけでは、なかなかお客さんが集まらないのではないかと考えたので、着ぐるみを活用して、多くの方にクイズに参加してもらうことに成功しました。これを踏まえて、改善点は、クイズの解説でもっと写真を使ったり、直接目で見てもらったりして印象に残せるようにする事だと思いました。活動を通して学んだことは、動物園に来られるお客様は、年齢・考え方・動物園に来られた目的などが1人1人違うということです。そのため、伝え方を少しでも変えることで、SDGsの目標でもある『生物多様性の重要性』を理解する事に一步近づくことが出来るという事を学びました。

### 【お絵描き班】

約半年間、4人で進めてきた活動が無事終わりやっとな落ち着くことが出来たと感じています。苦労したこととしては集客のため考慮すべきことが沢山あり、解決策を出すのに苦労しました。思っていたよりも何かを企画することは難しく、時間や手間がかかってしまいました。また、年の離れた子供とのコミュニケーションは意外と難しく、意思疎通がうまくできないこともありました。改善点としては仕事量が偏ってしまったことがあげられます。動物園授業のお絵描き班では賀中さんの働きが大きかったと思います。この活動を通して何か一つの企画を作り上げ、成功させることはとても難しいもので、多くの人の協力、関わりの元成り立っていることを学びました。この授業での経験はとても新鮮でありかつ自由性の高いものでもあり、とても有意義なモノでした。

## 担当教員からのコメント

大学キャンパスを飛び出して動物園に何度も通うことになりました。いのちと向きあうことのできる動物園で何を感じてくれるだろうか、期待しつつ対話を続けました。また、センター長の田中先生の計らいで動物園の外において、人が自然の中にいることを学ぶ機会を頂きました。心からお礼申し上げます。

本授業は、大学生である受講生たちが、自らの学びをサイエンス・コミュニケーターとして発信するイベントを実施することをひとつの目標として位置付けていました。具体的な内容や進行は、全て受講生に任せるものです。それぞれの得意分野を生かして進めてくれていましたが、グループワークの難しさ、来場客に実践する緊張感など様々なことを経験したことと思います。教員はじっと待つことを実践しつつ、本番の皆さんの生き生きとした姿を頼もしく嬉しく見ることができました。各班の協働も生まれていました。結果として、通常の授業よりも多くの時間を割くことになった科目です。よく頑張ったと思います。皆さんの「もっとこうすればよかった」、その一言が次につながると確信しています。



## 活動資料

### 【イベントチラシ】



### 【パネル班】



パネル試作（トラ）

パネル完成形（トラ/フンボルトペンギン/オオサンショウウオ）



当日の発表（ツシヤママネコ/オオサンショウウオ）

### 【音班】

京都ミュージアムPBL 京都市動物園企画  
京都市動物園×同志社大学政策学部  
音で感じる動物

下のQRから動物の鳴き声を聞いてみよう！！

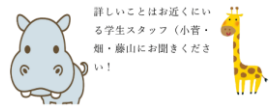


音で感じる動物の鳴き声を聞くことは嬉しいのでお聞かせください！！

日時：9月25日13時～15時に動物の鳴き声を流します。

場所：キリン、カバの展示スペース前

参加対象者：園内の方全員



音班チラシ



上の写真は実際にカバの前で鳴き声を流している写真です。実際にこのあとに鳴き声を流すとカバがこちらを向き、近くまで寄ってきました。そのあと近くのお客さんにQRコードの紙を渡して、他の動物の鳴き声も聞いてもらえました。

### 【お絵描き班】



私たちが大学生と一緒に動物を描いて動物をもっと知って魅力を上げようという内容です！動物の描き方や特徴も載るので楽しく描きましょう！



お絵描き班チラシ



絵をかく子どもたち



受付の様子

### 【クイズ班】

レンタルしたゾウの着ぐるみも前に立って一緒にクイズを出しました。クイズの最後には着ぐるみと写真を撮って帰るお客さんも多く見られました。クイズに参加してくれた子供たちに手作りの動物の折り紙をプレゼントしました。折り紙は150個作成しました。

